

十勝岳 (2077m)

2020年8月13日(木)・曇り

L: 磯部茂、磯部規(記)

「富士山に登って山の高さを語れ。
大雪山に登って山の大きさを語れ」

この言葉にひかれて北海道に向かい、本来は旭岳からトムラウシ山まで縦走する予定だった。しかし、滞在1週間山はずっと荒天……。ピストンならなんとかなるだろうと比較的良さそうな1日を選んで十勝岳に臨んだ。

前夜に登山口の望岳台駐車場で車中泊。十勝岳は活火山であり、1926年には噴火による融雪火山泥流で144人が犠牲となっている。気象庁HPでチェック、噴火警戒レベル1で問題なし。



翌朝、やはり雲が低く垂れこめていた。中腹からは全く見えず、先行きが不安だが下界は見えているので歩き出す。大石小石の混じる登山道を避難小屋までは、

さほどの風も無く歩けた。



小屋から登るに従って、どんどんガスが濃くなってきた。10m間隔ぐらいで黄色のペンキで登山道に誘導印があるが、それさえもハッキリしない。悪天候で引き返してくる登山者もいる。



道はますます傾斜がまして粘土質にもなってきた。ようやく急登が終わり、道がなだらかになった。周りはガスしか見えない、本来は火口壁の縁に当たる部分

を歩いているはずだ。

視界は 10m 前後、風も強く、時には耐風姿勢で進んだ。



メアカンキンバイ

3時間強で、なんとか頂上に着いた。残念ながら、山頂票以外、なにも見えず。寒いので、写真だけ撮って下山開始。



下から吹き上げる風にめがねも飛ばされそうで、しかたなく外して歩くほどの強風だった。

それでも、百名山。この天候でも次々に登山者が現れる。軽装ぶりが気になる。

全体的にのっぺりとした山容は、悪天候下では危険だ。コンパスと地形図がな

ければ進む方向も現在地もわかりにくい。黄色ペンキ印と登山道を示すロープがなかったら大変だった。



強風とガスまみれ！！



避難小屋までもどってくると、やっと下界がみえるようになった。一息つけた。あとはタラタラと望岳台まで戻った。

北海道の山は、本州に比べて山小屋が少ない。2000m 級の山といえど、日本アルプス並みの高山帯であり、気候は厳しく隠れるところも期待できない。

“なめたら痛い目に遭う”と強く感じた。

<タイム>

望岳台 (5:40) - 避難小屋 (6:50) -
ピーク (8:50) - 望岳台 (11:50)